

令和3年6月10日(木)、東京農業大学の内山教授のゼミ生13名を対象に、半田市の牧場エル・ファーム・サカキバラからリモート講座を開催しました。



今回のリモート講座では、東農大の卒業生である従業員と、今年4月入社的女性従業員に登場してもらい、学生と同年代が牧場でバリバリ働いている様子や、女性でも牧場勤務ができるという点をアピールします。

新人にいきなり説明を求めるのも酷なので、先輩が新人に仕事を教えているという設定にしました。乳肉複合経営をテーマに知多牛の出荷までを順を追って説明します。このように説明することは従業員本人にとっても仕事の手順の復習となり、作業の意味を再認識できます。それをリモートで聞いている学生にとっても従業員の言葉は現場の生の声として伝わっているのではないかと思います。

最後に質疑応答の時間を取りましたが、たくさん質問があり時間をオーバーしたため、後日別の授業の際に少しでもリモートでお邪魔し、再度質疑応答を行う事になりました。熱心な学生にはこちらでも全力でお答えしなければ!という思いです。

リモート講座では、今回のような時間切れ等やってみないとわからない問題がたくさんあります。内容についても、大学が求めている内容を伝えられているか、学生が愛知の酪農に興味を持つためにはどのような事を伝えと良いか等、牧場も経験を積みステップアップしていく必要があります。

大学側との事前打合せでは、学生が一番知りたいことは何かをまず確認します。また「牛好きnet愛知YouTube」の動画や、牧場HPを見てもらい、牧場の概要を知った上で参加してもらうようお願いいたします。事前に質問をもらっておくことも効果的です。

次に牧場との打合せでは、大学側の要望と照らし合わせ、その時間に実働できる作業とその順番、説明者を決めます。実際に作業している人は説明する余裕はないので、少しインタビューする程度が良いかと思えます。出演中は仕事を中断することになり、緊張感もあり仕事に集中できません。そのため従業員には序盤で出演してもらい、終わったら通常業務にすぐ戻れるように配慮します。



質問に答える社長と従業員の俵さん